花と緑のまちづくり構想について

四竈英夫

〔質問〕市長は今年度の施政方針の中で「花と緑のまちづくり構想」を打ち出している。

歴史情緒を体験できる城下町回遊ルートを取り上げ、沢端川流域を活用した桜並木のライトアップ。沢端川流域の観光を図り交流人口の拡大に努めることを掲げている。

まちを花で飾り、花のまちとして内外に発信することは重要なことと思う。構想の具体的な推進内容を伺いたい。

〔答弁〕【市長】白石に住む人、白石を訪れる人にとって、心安らげるまちを目標に「花と緑のまちづくり」事業に取り組もうとしている。具体的には地域に点在している花のきれいな場所やきれいに庭を手入れしている家庭などを白石のマップに落として紹介したい。

そして将来的にはオープンガーデンにつなげていきたい。花をきっかけとした地域ごとのコミュニティーの醸成、交流機会の創出に取り組みたい。

花を主眼に取り組んでいる市民・団体・企業などの情報を発信し、白石を訪れる交流人口の拡大につなげていきたい。

【交通死亡事故防止対策について】

〔質問〕白石警察署管内で死亡事故が急増している。12月5日現在で8件の死亡事故が発生し、犠牲者は10名。昨年同期は1名であり、実に10倍もの方が亡くなっている。これは過去10年間では最悪のペースである。

こうした重大事故をなくすため、白石警察署ではパトロールの強化や指導取り締まりを行うなど対策を取っている。

本市としても、事故防止対策を講ずべきと思うが所見を伺いたい。また、事故の現場を検証し、事故を誘発した要因や道路環境の整備に努めるべきと思うがいかがか。

〔答弁〕【市長】事故防止対策については、9月と11月に全世帯に回覧と各戸配布のチラシで事故防止を呼び掛けた。

また、10月23日から11月22日までの1ヶ月間交通死亡事故多発緊急事態を宣言し、交通安全協会・交通指導隊の協力を得て街頭指導などの活動を強力に進めてきた。

今後とも継続的に交通安全運動を進めるとともに、白石警察署との連携を図りながら、交通死亡事故ゼロのまちの復活を目指していきたい。

震災からの復旧後について

澁谷政義

〔質問〕東日本大震災から早2年9カ月が経過し年度内には復旧工事がほぼ完了する見通しとなったが、復旧期間であれ住民からは生活環境の向上や安全性の向上などの各種要望が提出されている。行政側は復旧工事最優先・業者不足・予算がない等の理由で受け入れてくれなかった。また、返答がないものも沢山ある。年度末には復旧工事もほぼ完了することから新年度への期待が大きいため、次の3点について伺う。

①災害復旧工事のために利用され傷んだ市道の整備はどのように行っていくのか。

②災害復旧工事のために、延期された要望に対しての修繕等の実施予定はどうなっているのか。

③各種要望に対する対応の仕方として、親切丁寧に返答されているのか。

〔答弁〕【市長】①整備のための実施計画は作成していない。早急に修繕を行わないと交通の支障になるようなポットホール（穴）等については随時修繕を実施していかなければならないと思っている。

②現地を調査し緊急性、必要性の高いものから予算措置を行って要望箇所に対応したいと考えている。

③地区民要望書については、これから公文書でしっかりと回答するように指示をしたところである。

【セシウム吸収抑制材散布について】

〔質問〕平成24・25年度産米の作付け前に土壌に蓄積したセシウムの吸収抑制剤として効果を発揮する塩化カリウムを各農家が散布している。散布による抑制効果を認めながらも高齢化による労働力の低下も現実であり、現に作業の省力化を図ってきた矢先の余計な労働負荷である。

長期間にわたって抑制材が必要となれば、労力の軽減化を図るための機械購入費を東京電力に要求できないか所見を伺う。

〔答弁〕【市長】自分たちの米は自分たちで守る事が大原則である。

機械については、地区単位で購入した場合の作業はどうするのかなど、おそらく種々の問題が出てくるので、東京電力に請求しても難しいと思う。